

平成31年4月

各 位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート 平成31年4月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

八戸圏域8市町村（八戸市、三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村、おいらせ町）の地域活性化を図るため、八戸市物産協会、八戸市観光コンベンション協会、八戸市（観光ソフト事業）、八戸広域観光推進協議会、八戸地域地場産業振興センターの5団体が統合し、八戸圏域版DMO「VISIT はちのへ」として4月1日に始動しました。

観光地経営の舵取り役として、八戸圏域の魅力を国内外へ発信し、地域ブランドの確立（信頼関係の構築）を図り、来訪者を増加させビジネスチャンスを広げることで、新たなビジネスの創出と雇用の拡大、定住人口の増大につなげていくことを目標としています。

さて、4月1日付けの人事異動により、当事務所の職員が、次のとおり変更となりました。当事務所所長の古町、新たに赴任しました川村、嘱託職員の籠利の3人体制となります。

引き続き、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

	東京事務所	旧職名 / 新職名
新	かわむら ゆきお 川村 幸男	(旧職名) 商工労働観光部 産業労政課 主査
旧	ならおか くにはこ 奈良岡 邦彦	(新職名) まちづくり文化スポーツ部 八戸ポータルミュージアム 主査

◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

八戸 4月号 レポート

平成31年3月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

記事	概要
(1)	八戸市庁でパネル展開催 ～震災の記憶を風化させない～
(2)	改元、大安の5月1日 八戸市が特別ブースで婚姻届受理検討
(3)	「八戸市手話言語条例」4月施行へ
(4)	耐震工事計画の八戸市公会堂 工期5カ月延長
(5)	八戸駅西口駅前広場 全面供用開始

【産業】

記事	概要
(6)	館鼻岸壁朝市 “未公認”キャラ「イカドン」グッズ開発
(7)	八高専と関乃井酒造（むつ市） ツバキ酵母で日本酒開発
(8)	八戸みなと漁協直売施設「浜市場・みなとと」竣工
(9)	優良ふるさと食品中央コンクール「八戸サバ缶バー」が最高賞

【地域】

記事	概要
(10)	籠神社 道路整備で伐採 ～さらば鎮守の森～
(11)	「マリンマイスター」に八戸水産高の11人認定
(12)	青森県防災士会八戸支部 市内の小中学校で「防災教室」開催
(13)	北奥羽各地で追悼行事 八戸で「ヒューマンバンド」開催
(14)	市庁前の小便小僧 市民が冬衣装プレゼント
(15)	蕪島にウミネコ続々と飛来
(16)	館鼻岸壁朝市が再開 市民、観光客ら3万人が来場

【文化・スポーツ】

記事	概要
(17)	テクナルアイスパーク八戸で「浅田真央サクスツアー」5月開催へ
(18)	ヴァンラーレ八戸 J3初戦ドロー
(19)	女子レスリングアジア選手権 伊調馨選手が2年8カ月ぶりに出場
(20)	「図書館を使った調べる学習コンクール」土橋君（吹上小4年）が観光庁長官賞受賞
(21)	ピーウィー国際アイスホッケー大会 10年ぶりに八戸で開催
(22)	ユートリーに八戸三社大祭のミニ山車設置 ～三社大祭のにぎわい表現～
(23)	ゴスペラーズ北山さん 母校八高で「校歌プロジェクト」講演
(24)	長根公園内に「(仮称)伊調ロード」構想 ～五輪V4の軌跡紹介～

【行政】

記事	概要
(1)	<p>八戸市庁でパネル展開催 ～震災の記憶を風化させない～</p> <p>八戸市庁本館1階で、東日本大震災が発生した当時の市内の被害や復興状況を伝える写真・パネル展が3月18日まで開催された。震災の記憶を風化させないよう市が企画し、毎年3月に開催している。被災した蕪島周辺や多賀地区の8年前の様子、復興に向けて新たに建設された施設を記録した写真約90点などを、市民らに紹介した。</p>
(2)	<p>改元、大安の5月1日 八戸市が特別ブースで婚姻届受理検討</p> <p>八戸市は、新天皇が即位し、改元となる5月1日に市庁舎内に婚姻届を受理する特別ブースの開設を検討している。当日は六曜で最も良い日とされる「大安」でもあり、婚姻届を届け出る市民が増えるの見込んだ対応。通常、日曜・祝日や夜間の場合、窓口ではなく、市庁舎別館1階の巡視室で受け取る対応をしている。今年は祝日だが、日頃から婚姻届などの業務を担当する市民課の職員が出勤して別館1階に特別ブースを設け、受理や確認業務を行う方向で検討している。</p>
(3)	<p>「八戸市手話言語条例」 4月施行へ</p> <p>八戸市が制定に向けて準備を進めていた「市手話言語条例」が本会議で可決、成立し、4月1日に施行される。医療機関や公共施設などで手話を使える環境を整備するなど、行政や事業者が手話に関するあらゆる取り組みを推進することで、ろう者と健聴者が支え合う地域社会を目指す。青森県内での条例制定は黒石市、弘前市に次いで3番目で、県南地方では初めてとなる。</p>
(4)	<p>耐震工事計画の八戸市公会堂 工期5カ月延長</p> <p>八戸市は3月18日、天井の耐震補強工事を計画している市公会堂と隣接する市公民館の各ホールについて、工期を延長する方針を明らかにした。工期変更の理由は、両施設で天井のはりの補強がさらに必要になった他、東京五輪関係の建設需要の影響で、鉄骨同士をつなぐ高張力ボルトの調達が遅れる見通しのため。当初、公会堂ホールの工期は今年7月～2020年7月としていたが、今年7月～2020年12月に延長。工事期間中は休館となるため、別の公共施設やホテルを代替施設として対応する。</p>
(5)	<p>八戸駅西口駅前広場 全面供用開始</p> <p>八戸市が整備を進めてきた「八戸駅西口駅前広場」が3月28日、全面供用開始となった。既に供用済みの短時間無料駐車場に加え、バス駐車場やタクシープール、交流スペースなどを整備。この日は竣工式典が開かれ、関係者が広場の完成を祝った。八戸駅西口駅前広場は2016～18年度にかけて整備。敷地面積は約1万700平方メートル。2002年12月の東北新幹線八戸開業から16年余りを経て、新たな“玄関口”となる広場が完成し、一層の利便性向上や交流促進が図られそうだ。</p>

【産業】

記事	概要
(6)	<p>館鼻岸壁朝市 “未公認”キャラ「イカドン」グッズ開発</p> <p>八戸市の菓子卸センター坂下商店は、不定期で館鼻岸壁朝市に現れる“未公認”キャラクター「イカドン」のグッズを開発した。イカドンは、他のゆるキャラとは一線を画す劇画調の表情が話題を呼び、全国ネットのテレビ番組で取り上げられるなど徐々に注目度が高まっている。坂下商店は、イカドンファンだった商品開発担当の矢神結花さんを中心に、昨年6月ごろから関連グッズの開発に着手。トートバッグやポストカードなど全8種類を製作した。担当者は「グッズを通じ、多くの人に八戸の街や朝市のことを知ってほしい」とPRしている。</p>
(7)	<p>八高専と関乃井酒造（むつ市） ツバキ酵母で日本酒開発</p> <p>八戸高専は、むつ市の関乃井酒造（関勇蔵社長）などと共同で、ツバキの枝から取り出した酵母を使った日本酒「ららら」を開発した。関社長の娘で、同校1年の関淑楓さんが「発酵について研究したい」と思ったのが開発のきっかけで、夏泊半島に自生する「北限のツバキ」に着目。ツバキの花や葉、枝などを採取して分析を行った結果、枝から、アルコール発酵力は弱いものの酸味が強い酵母を取り出すことに成功。この酵母を活用し、完成にこぎ着けた。アルコール度数は9%で、日本酒としては低め。甘味と酸味のバランスを調整しており、食前酒に向いているという。価格は500ミリリットル入り980円（税別）で、450本限定。</p>
(8)	<p>八戸みなと漁協直売施設「浜市場・みなとつと」竣工</p> <p>八戸みなと漁協が八戸港の館鼻岸壁近くに整備を進めていた直売施設「浜市場・みなとつと」が3月16日、完成した。昨年7月に着工、建設費2億5600万円、床面積は688平方メートル。取れたての水産物を割安で販売するほか、約40席の食堂では漁協婦人部が腕を振るう。実習室も備え、干物作りや釣り教室といったイベントを開催するなどし、訪れた人たちに水産業への理解を深めてもらう。オープンは4月21日。</p>
(9)	<p>優良ふるさと食品中央コンクール「八戸サバ缶バー」が最高賞</p> <p>八戸市の水産卸加工マルヌシが開発した「八戸サバ缶バー」が「2018年度優良ふるさと食品中央コンクール」（食品産業センター主催）の新製品開発部門で、最高賞の農林水産大臣賞に輝いた。八戸サバ缶バーは秋に水揚げされ、脂の乗った八戸前沖さばを使った缶詰シリーズで、「津軽海峡の塩」「アヒージョ」などに加え、3月21日には上北農産加工とコラボした新商品「源たれ味」が発売され、全7種類。パッケージは同市のデザイナーが手掛けており、サバの横顔をあしらったカラフルでポップなデザインが特徴。青森県内からの最高賞受賞は8年ぶり6度目となる。</p>

【地域】

記事	概要
(10)	<p>籠神社 道路整備で伐採 ～さらば鎮守の森～</p> <p>八戸市内丸2丁目の籠神社の境内で、「都市計画道路3・5・1沼館三日町線」の整備に伴う木の伐採作業が進んでいる。沼館三日町線事業は、JR本八戸駅南口東側の交差点から三日町交差点までの約700メートルで車道を拡幅するほか、道路両側に約3メートルの歩道を設置する計画。一部の区間は新道へと切り替わり、同神社の一部も区域内に入っている。「鎮守の森」として、100年以上にわたって親しんできた風景に思いをはせながら、地元住民が作業を見守った。</p>
(11)	<p>「マリンマイスター」に八戸水産高の11人認定</p> <p>全国水産高校長協会が優れた生徒を顕彰する「マリンマイスター」に、青森県立八戸水産高の3年生11人が認定された。中でも水産工学科の三上嶺さんは、総合得点で87点を獲得し、全国4位となった。同マイスター制度は、資格試験や検定、各種コンクールなどで優秀な成績を収めた全国の水産・海洋系の高校に通う生徒を表彰する。取得した資格の難易度や各大会での活躍などを得点換算し、「プラチナ」、「ゴールド」、「シルバー」の3段階で評価する。勉強の成果が認められた生徒たちは、「将来は船に関わる仕事に就きたい」などと、将来の夢に向けた決意を新たにしている。</p>
(12)	<p>青森県防災士会八戸支部 市内の小中学校で「防災教室」開催</p> <p>防災や減災の大切さを、子どもたちから両親や祖父母に伝えてほしい。東日本大震災の発生以降、青森県防災士会八戸支部は、こんな思いを持ちながら八戸市内の小中学校で防災教室を続けている。震災から8年の節目となった3月11日、市立大久喜小で防災教室が行われ、実際に八戸に押し寄せた津波の高さを示した模造紙を体育館のバスケットゴールにつるし、津波の恐ろしさを子どもたちに分かりやすく伝えた。同支部が各校で教えた内容を、子どもたちが持ち帰って家族と話し合うことで家庭内で防災への理解がより深まるとの考えで、将来の八戸を担う子どもたちに向けて防災教育に力を注いでいる。</p>
(13)	<p>北奥羽各地で追悼行事 八戸で「ヒューマンバンド」開催</p> <p>東日本大震災から8年となった3月11日、北奥羽地方の被災地では追悼行事や避難訓練が行われた。八戸市の沿岸部では犠牲者の鎮魂を祈るイベントが各地で開かれ、鮫町の南浜公民館では、2012年から毎年開催されている「HUMANBAND (ヒューマンバンド) on 3. 11」に市民ら約180人が参加した。発生時刻の午後2時46分には、参加者が手をつないで1分間黙とう。犠牲者を悼むとともに、震災の記憶を改めて胸に刻み込んだ。</p>
(14)	<p>市庁前の小便小僧 市民が冬衣装プレゼント</p> <p>八戸市庁前ロータリーの噴水内にある小便小僧が、暖かいコートとマフラーを着用した“冬仕様”になっている。市は冬の到来に合わせ、噴水は水を抜いて清掃し、その際に小便小僧も劣化しないように保護して冬期間に備えるため、頭から透明な袋をかぶせられ、体はひもでぐるぐる巻きになっていた。そんな姿をみかねた市民の女性が「服を着せてあげてほしい」と手作りの衣服をプレゼント。これまで、八戸三社大祭の引き子やサンタクロースの姿に変身し、風物詩として定着してきた小便小僧。“かわいそう”な姿を放っておけないほど、市民に愛されているようだ。</p>

(15)	<p>蕪島にウミネコ続々と飛来</p> <p>ウミネコの繁殖地として国の天然記念物に指定されている鮫町の蕪島で、ウミネコの飛来が本格化している。3月15日の八戸は最高気温が7.6度と平年並み。昼ごろまで晴れ間がのぞき、日が当たる場所では、春の陽気が感じられた。蕪嶋神社では、2月下旬にウミネコの着島を確認。神社周辺の地面の氷が解けると、次第に飛来数が増え、島に下りてくるという。この日、蕪島の上空では、無数のウミネコが「ミャー、ミャー」と元気な泣き声を響かせ、気持ちよさそうに舞っていた。</p>
(16)	<p>館鼻岸壁朝市が再開 市民、観光客ら3万人が来場</p> <p>日本最大級の朝市として知られる八戸市の館鼻岸壁朝市が3月17日、約2カ月半ぶりに再開され、開催を待ち望んでいた市民や観光客らでにぎわった。生鮮食品や惣菜、日用品などさまざまな出店が並び、多い時期には約320店舗にも上る。近年はメディアや会員制交流サイト(SNS)での露出も増え、市内を代表する観光スポットとして定着している。この日は約250の店が出店、約3万人が来場した。年末までの毎週日曜（5月12日を除く）に開かれる。</p>

【文化・スポーツ】

記事	概要
(17)	<p>テクノルアイスパーク八戸で「浅田真央サクスツアー」 5月開催へ</p> <p>アイスショーで全国を回り、今までの応援への感謝の気持ちを伝える「浅田真央サクスツアー」に主演する浅田真央さんが3月7日、青森テレビ本社を訪れ、テクノルアイスパーク八戸で5月11、12日に開く青森公演をPRした。今回の公演は「ファンへの感謝」がテーマ。各大会で滑ってきたプログラムをメドレーという形で披露し、ソチ冬季五輪フリーのラフマニョフ「ピアノ協奏曲第2番」などを演じる。公演は両日とも正午からと午後4時半からで1日2回開催される。</p>
(18)	<p>ヴァンラーレ八戸 J3初戦ドロー</p> <p>サッカーJ3に今季参入したヴァンラーレ八戸は3月10日、大阪府吹田市のパナソニックスタジアム吹田でガンバ大阪U-23とのJ3開幕戦に臨んだ。スタンドにはこの日、約30人のサポーターが濃緑のユニホームを着て陣取り、試合前には「勝ち点3を取って八戸に帰ろう」と気合十分。一進一退の展開をたどった初戦は2対2の同点に終わり、Jリーグでの初白星を逃したが、勝ち点1を獲得した。翌週の3月17日には、長野市の長野UスタジアムでAC長野パルセイロと対戦。試合は前半、相手にシュート7本を放たれるなど押される時間が長かったが、38分に得たPKを決めて先制。後半にも追加点を挙げて2-0で勝利。2戦目で、念願の初白星を挙げた。</p>
(19)	<p>女子レスリングアジア選手権 伊調馨選手が2年8カ月ぶりに出場</p> <p>日本レスリング協会は3月11日、2020年東京五輪で五輪5連覇を目指し、昨年10月に復帰した女子57キロ級の伊調馨選手（八戸市出身、ALSOK）がアジア選手権（4月23～28日・西安＝中国）に日本代表として出場すると発表した。国際大会出場は五輪4連覇を成し遂げた2016年リオデジャネイロ五輪以来で約2年8カ月ぶりとなる。57キロ級は4月26日に行われる予定。</p>

(20)	<p>「図書館を使った調べる学習コンクール」土橋君（吹上小4年）が観光庁長官賞受賞</p> <p>図書館振興財団主催の2018年度・第22回「図書館を使った調べる学習コンクール」全国大会で、江戸時代に八戸地方の水利事業に尽力した蛇口伴蔵をテーマに研究した、市立吹上小4年の土橋侑真君が最高賞に次ぐ観光庁長官賞を受賞した。土橋君は「水の先駆者 蛇口伴蔵」と題して図書資料や現地調査を実施。蛇口が始めた水利事業が、最終的に世増ダム（南郷）の建設につながっていることなどを指摘し、蛇口の功績をたたえた。3月8日に、市庁に伊藤博章教育長を訪ね、受賞を報告するとともに喜びを語った。</p>
(21)	<p>ピーウィー国際アイスホッケー大会 10年ぶりに八戸で開催</p> <p>テクノルアイスパーク八戸を会場に、第16回フレンドシップ2019ピーウィー国際アイスホッケー大会が、4月27日～5月5日の日程で行われる。八戸市での開催は10年ぶり3回目で、市内3チームに加え、米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、チェコの5カ国から10～13歳前後の選手で編成された計13チームが参加する。期間中は海外から選手や監督ら約400人が市内に滞在。選手はホームステイしながら市民と交流する。今回は市と商工会議所、県アイスホッケー連盟が主催し、市制施行90周年記念事業の一つとして行われる。</p>
(22)	<p>ユートリーに八戸三社大祭のミニ山車設置 ～三社大祭のにぎわい表現～</p> <p>八戸三社大祭でにぎわう様子を再現したミニ山車が3月17日、八戸駅に隣接する八戸地域地場産業振興センター（ユートリー）1階の八戸三社大祭魅力発信コーナーに新設された。ミニ山車は、山車絵師の夏坂和良さんら各山車組の有志約10人が昨年9月から制作。引き子や囃子手ら約80体も作り、迫力の場面を作り上げた。幅3メートル、奥行き8.5メートル、高さ3.4メートルで、実際の山車の約3分の1ほど。お囃子の音色に合わせて30分置きに山車がせり上がる仕掛けも再現している。</p>
(23)	<p>ゴスペラース北山さん 母校八高で「校歌プロジェクト」講演</p> <p>八戸市出身でボーカルグループ「ゴスペラース」のメンバー、北山陽一さんが3月18日、母校の青森県立八戸高を訪れ、校歌の意味や背景を考える講演会「校歌プロジェクト」を実施した。県内の学校で校歌の意味を掘り下げる活動をやってみたい、と考えていたという北山さん。県が主催する高校生の県内定着・還流促進事業の一環で今回初めて実現した。北山さんは歌詞に登場する地名などを挙げながら「どんな情景が浮かぶか」「どんな意味があるのか」と生徒たちと議論。生徒たちと語りながら「自分自身や、生まれ育った地域の魅力を考え直すきっかけにしてほしい」と呼び掛けた。</p>
(24)	<p>長根公園内に「（仮称）伊調ロード」構想 ～五輪V4の軌跡紹介～</p> <p>八戸市は3月19日、長根公園の園路の一部に整備を計画する「（仮称）伊調ロード」の基本構想を公表した。レスリング女子で五輪4連覇を果たし、国民栄誉賞を受賞した伊調馨選手をたたえ、同選手の軌跡をたどることができる空間とするほか、モニュメントの設置なども検討している。伊調ロードは、建設中の市立屋内スケート場付近から、伊調選手が中学生まで練習に励んだ市武道館までをつなぐ園路で、延長約80メートル、広さ約2100平方メートルを想定している。</p>